

水道事業のしくみ

- 1 水道事業の概要
- 2 水道事業のあゆみ

水道のしくみ

水源（表流水、地下水など）



浄水場（ろ過池、滅菌設備、電気室など）



配水池（水道水を貯留）



お客様へ（配水池の落差やポンプの圧力により配水）

1 いの町水道事業の概要

○ いの町水道事業は、昭和29年に創設されて以来、人口や水需要の増加、給水区域の拡大に対応するため、6次にわたる拡張事業をおこなってきた。また、公衆衛生の向上と生活環境の改善を行うため、簡易水道の創設をおこなってきた。

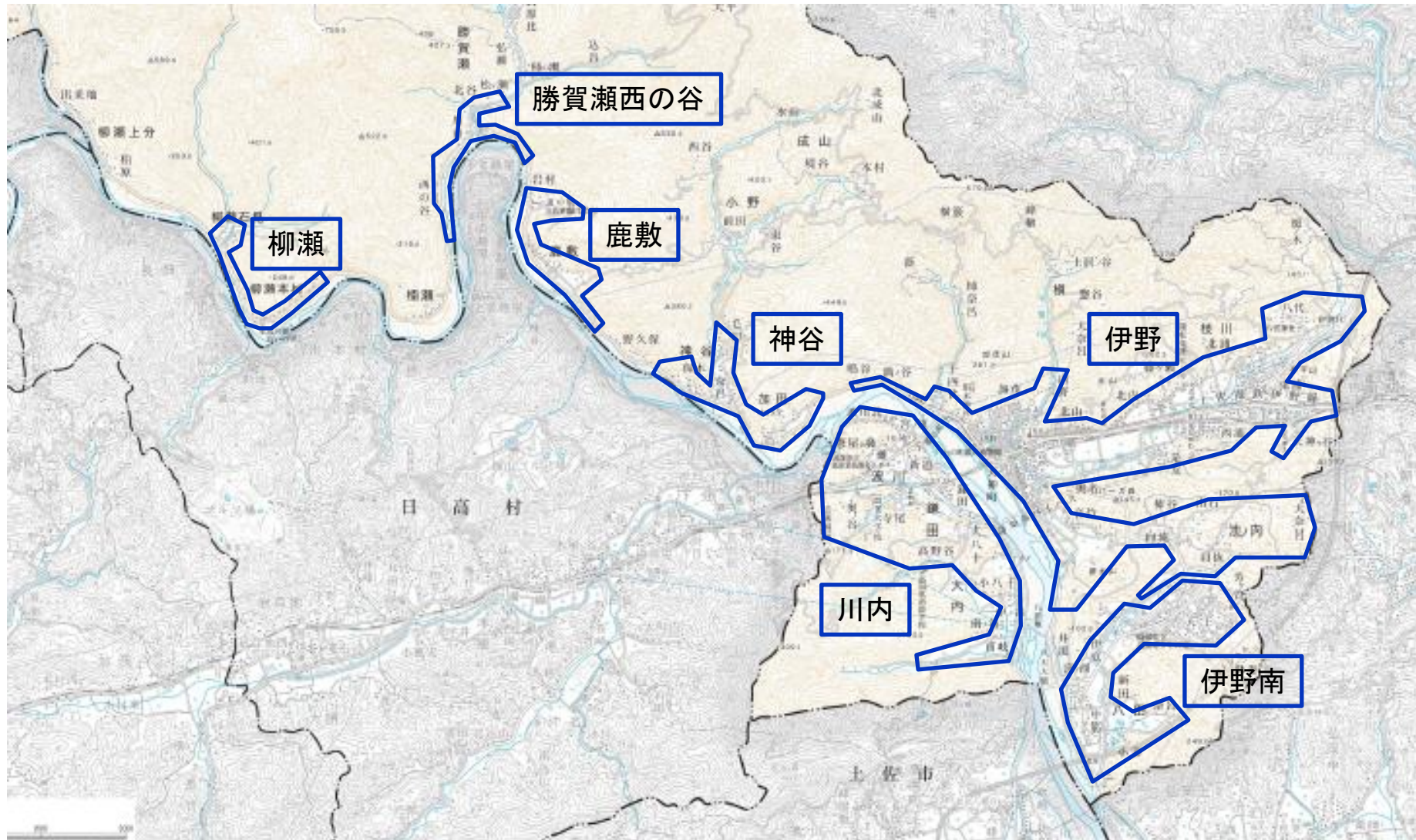
○ 平成29年度末の水道管の総延長は約251km

☆平成29年度末の状況

行政区域内人口	23, 207人
給水人口	21, 179人
給水戸数	9, 375戸
水道普及率	91. 3%
配水量	3, 226, 372m ³

いの町水道事業の給水区域

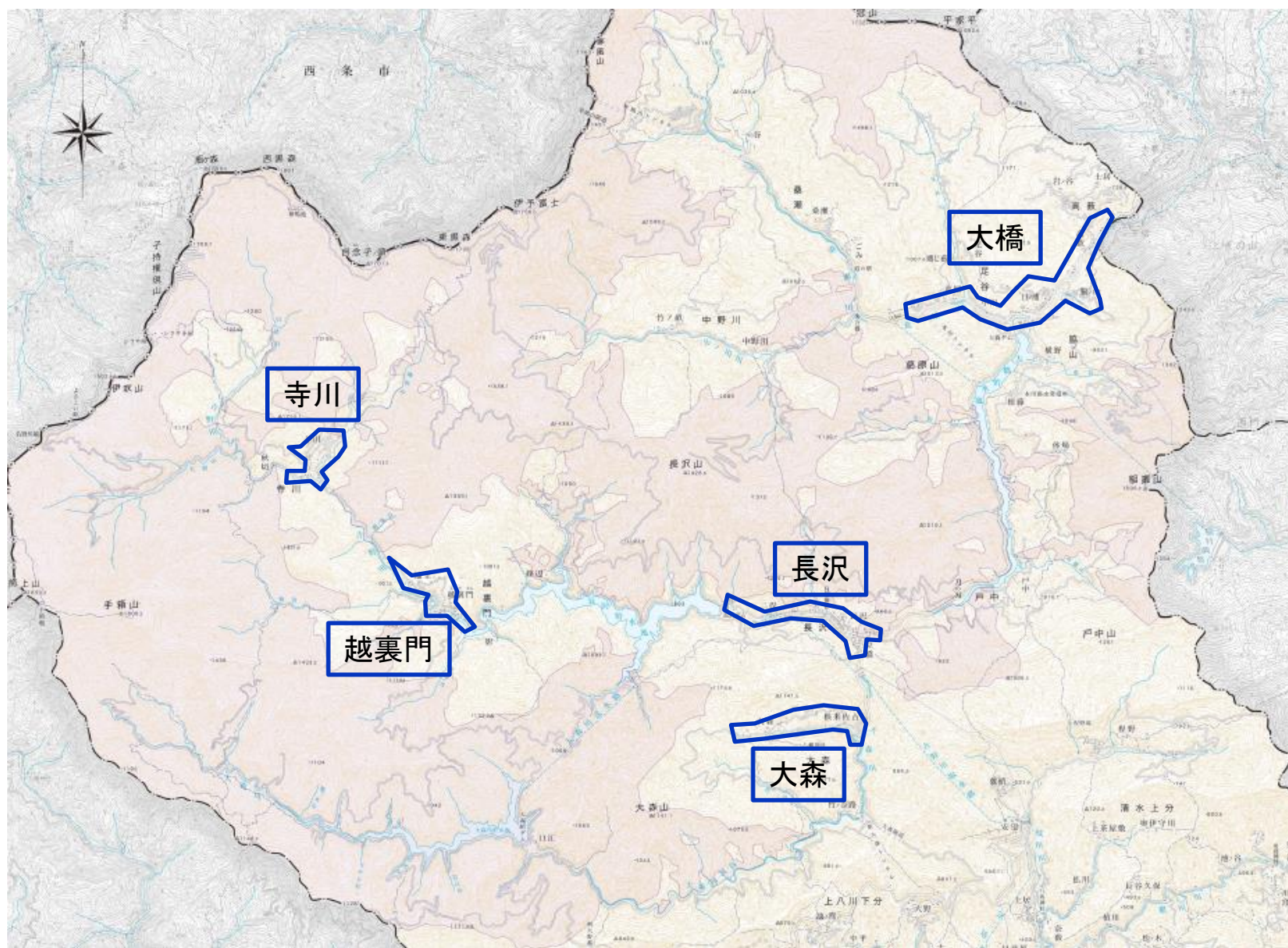
伊野地区



吾北地区



本川地区



いの町の水源

①表流水(河川水)

本川・長沢取水地



吾北・上八川取水地



②地下水

伊野・公園町取水地



伊野・鹿敷取水地



いの町の浄水場

○ 吾北・本川地区において表流水をろ過し、水道水に浄水

本川・大森緩速ろ過池



本川・長沢膜ろ過施設



吾北・小川上向式ろ過池



吾北・槇川上向式ろ過池



配水

浄水された水を配水池に送り、自然落差やポンプを用いて配水

伊野・伊野南配水池



伊野・西山加圧ポンプ



吾北・下八川配水池



本川・大橋配水池



いの町水道事業のあゆみ

民間会社が設置していた伊野上水道を昭和29年に譲渡され創設



現在までの主要な更新事業の実施状況

○伊野上水道新水源地事業

マンガンによる水質悪化が問題となっていた上水道音竹水源地について仁淀川右岸の鎌田地区に新たな水源地を整備し、平成22年度から清廉な水道水の供給を開始した。



○上八川・思地統合事業

水源水量不足や浄水場・管路の老朽化が進んでいた吾北地区、思地簡易水道について隣接する上八川簡易水道から水道水の供給を受ける統合事業を平成23～25年度にかけて実施し、新たに本郷配水池を整備するとともに思地地区の配水管の布設替えを行った。



○土居日比原管路更新事業

管路の老朽化が進んでいた吾北地区、土居日比原簡易水道について、管路の更新事業を平成26～28年度にかけて実施。



○寺川浄水施設整備事業

ろ過設備のなかった寺川水道施設に機械式膜ろ過装置を設置し、水質向上を図る事業を平成29年度に実施。



○伊野南取水地改良事業

水位低下となって取水停止している1号取水井について井戸更生工事をおこない、取水を再開する。また、同じ傾向にある2, 3号取水井についても更生工事をおこない適正な取水量を確保する。



1号井



2, 3号井

○北山・大国山配水池統合事業

老朽化が進んでいる上水道大国山配水池と北山配水池について、ダウンサイジングを踏まえた両配水池の統合を目的として、現北山配水池の隣接地に新たに配水池を整備する事業を平成26年度から実施。



今後の重点的な水道事業計画

現在、水道普及率が91.3%となり人口減や水需要の減少によりこれ以上の拡張事業はないことから維持・管理の時代となっている。

しかし、来るべき南海トラフ地震に対して重要施設や管路の耐震化、老朽管路の更新や設備の更新をおこなっていく必要があり、今後10年の事業計画で管路の耐震適合率を基幹管路で10%向上の43%に、配水支管で6%向上の88%にするよう計画している。

今後10年間の主な事業内容

- ・北山・大国山配水池統合事業
- ・伊野南取水地改良事業
- ・重要度の高い基幹管路の更新
- ・老朽化した配水支管の更新
- ・機械・電気設備の適正な更新
- ・災害時の拠点となる緊急資材倉庫の新設